こだま新聞

第　8　号
平成8年5月1日
編集・印刷
児玉医院・歯科

医院紹介【強制治療】

たいていのお子様は、何回か治療をしていくうちに平気で治療を受けれるようになりますが、中には椅子に座っただけで泣いたりぐずったりすることがあります。治療に慣れるまでの間、事故を防ぐために、付き添いをしている方の了解を得て頭や肩を押さえて治療をすることがあります。これを強制治療といいます。

本来ならば、治療器具についての説明をしながら一つずつ恐怖感を取り除き、その上で治療をするのが良いと思います

しかし、「虫歯の治療をすることが自分のためなんだ」ということをお子様に理解してもらうことが困難な場合が多いことや、小さいお子様の場合、付き添いの方が歯科医院に連れて来るだけでも大変なご苦労をされている場合が多いこと、乳歯の虫歯の進みかたが早いこと、永久歯に与える影響が強いことを考えると、多少は無理をしてでも治療を進めた方が結果的にはお子様のためになる場合が多いのではないかと私は考えます。

このあたりの考え方は人様々お持ちと思います。お子様のことを良く考えて決断していただきたいと思います。

ただ、子供の精神的な発育は急速に進みますので何ヶ月か後になると平気で治療をさせる場合もあります。今は無理でも、何ヶ月か置いて再度治療をさせてみるという方法はいかがでしょうか。

歯の豆知識【不快症状】

歯科の治療を受けた後、痛みやしみるなどの不快な症状が残ることがあります。多くの原因は麻酔に由来するものです。

唇が腫れた

これは麻酔が切れないうちに唇や頬の粘膜を噛んで傷を作ってしまうために生じることが多いようです。子供に多く見られます。治療後に「ビリビリするのが取れないうちに噛んだりしないでね」と注意をしていますが時々発生します。原因が別の時もありますから腫れた時はご連絡下さい。

歯肉が痛い

麻酔の針による刺激や型を採る時に行う止血操作の刺激で生じることが多いようです。痛みが出そうな時には痛み止めの薬を処方しています。痛みが続く時は別の原因が考えられます。

歯がしみる

知覚過敏症といいます。冷たいものや熱いものに歯がしみる症状です。様々な原因がありますが歯石除去や虫歯の治療後に出ることが多いようです。多くの場合は時間の経過とともに消退していきます。次第に痛みが弱くなっていくようでしたらあまり心配はいりません。症状が強い時は楽にする方法がありますからご来院下さい。

歯肉が腫れた

原因をはっきりさせて処置しないと改善しないことが多い。治療が必要です。ご連絡下さい。

かみにくい

噛み合せの調整が不十分であることが多い。再調整が必要です。噛むと痛い場合も同じです。

口が開きにくい

親知らずなどの奥歯を抜歯したり、治療のために長い時間、口を開いていた場合に生じるようです。外科手術をした後に開きにくくなったのであれば腫れがひけるとともに改善します。長時間口を開いていた後に生じたのであれば一種の筋肉痛ですから時間とともに楽になっていきますが中にはなかなか改善しない時があります。これは顎機能不全症（顎関節とその周囲の病気）がもともと存在しているためです。この場合は治療が必要になります。

終了証

先月終了証をお渡しできたのは次の皆さんでした。

市川　貴子さん
北嶋　綾子さん
佐々木　崇くん
佐々木　悠くん

ごくろうさまでした。

今月の予定

四月
二九日　休診（みどりの日）
三〇日　職員誕生日（渡部）

五月
三日～六日　休診（祭日）
二〇日　近代口腔科学研究会
二二日　職員誕生日（院長）